

2005 年度 事業報告

1. 概 況

2005 年度は化学生物総合管理学会としては設立後 2 年目の活動になるため、それまでの組織基盤作りから更に進めて、個別の活動を力強く展開し具体的な形にしていくことを基本方針にして取り組んできた。情報発信能力を高めること、学会活動の基盤をさらに強固なものにするため、他の学会、有識者或いは関連する機関と連携を強化することを目指すとともに、参加・参画型の学会活動にすることを目指して運営した。その結果、学会誌の発行が定例化したこと、秋季、春季の学術発表会を開催するようになったことなど、充実した活動になった。また、正会員があらたに 15 名、賛助会員が 1 機関増えた。

2. 特定非営利活動に係る事業報告

2-1. 調査・分析・研究活動

(1) 2005 年度第 2 回学術総会

2005 年 11 月 1 日、東京都千代田区 日立・東お茶の水ビルで開催した。
2005 年度から定期総会と分離して、学術発表を行う年会として開催することとした。
学術発表：11 件
特別講演：国立感染症研究所 倉田所長 「感染症 昨日・今日・明日」
東京大学医科学研究所 高津教授 「化学物質と免疫」
当面、会員以外にも公開することとしており 213 名が参加し盛会となった。
2005 年度の学術総会は株式会社日立製作所の協賛を得た。

(2) 2005 年度春季学術集会

2006 年 3 月 3 日、東京都文京区 お茶の水女子大学で開催した。
秋季に行う学術発表の年会とは別に、論議を深める場が欲しいという要望が出たので、春季学術集会を初めての試みとして行った。
北九州市の産業医科大学産業医実務研修センターからの発表も含め、7 件の発表があった。参加者は 32 名であった。
発表件数を 7 件に絞り、質疑応答の時間にゆとりを持たせたが、更にテーマを絞り込んでも良かったのではないかと、との意見もあった。
次回以降は、春季討論集会と命名して性格をより明確にしていく。

(3) 学会誌「化学生物総合管理」の発行

2005 年度は第 1 巻第 2 号、第 3 号を発行し、ホームページに掲載した。

1) 第 1 巻第 2 号(8 月発行) 総ページ 81 ページ

巻頭言 近藤雅臣 大阪大学名誉教授
報文 4 件
短報 2 件

2) 第1巻第3号(10月発行) 総ページ 149 ページ

巻頭言 橋本嘉幸 共立薬科大学理事長

特集 化学物質のリスク評価・管理における毒性病理学の重要性和
佐々木研究所の果たした歴史的役割 報文 6件

総合報文 1件

報文 4件

短報 2件

電子ジャーナルシステムによる学会誌公開(J-STAGE)

独立行政法人科学技術振興機構(JST)が運営する電子ジャーナルシステム(J-STAGE)に学会誌を掲載することとした。

2006年3月に発行済みの第1巻1号から3号までを掲載した。

これにより、学会誌は学会のホームページ (<http://www.cbims.net>) からJ-STAGE (<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/chemobio>) からアクセスできるようになった。

(4) 研究会活動

当学会の事業目的に合うテーマについて会員は自由な発意により研究会を立ち上げることができる。

2005年度は、化学物質総合管理法制研究会(法制研究会)、化学物質総合評価研究会(評価研究会)、ナノ材料のリスク評価に関する研究会が作られて、2005年6月27日(第2回定期総会終了後)に活動計画発表会を行った。

各活動の概況は以下のとおり。

- ・化学物質総合管理法制研究会(法制研究会)

研究会メンバーがその主張を学会誌に投稿した。

研究会リーダーが研究会討論用の資料を各種準備しており、2006年度上期に実際の集合討論が行われる見込みである。

- ・化学物質総合評価研究会(評価研究会)

モデルとする実例テーマが集まり難く、休眠状態となったため、2005年度をもって研究会活動を終了した。

- ・ナノ材料のリスク評価に関する研究会

2004年度から継続している研究会であった。

2005年6月に、国際生命科学協会(ILSI)・環境保健科学研究所(HESI)のMichael P Holsapple氏を招いて、同研究所が行っている「Nanomaterial Safety Project (Solubility, Toxicity, Life-Cycle Analyses, Characterization)」についての討論を行った。

2-2. 知見の集大成、体系化に関する事業

化学工業日報社の70周年記念出版計画に関して、同計画が過去70年間に進

展してきた「化学物質の供給」や「化学物質の管理」に関する事柄について、実社会で経験をつんできた世代が、事実を検証しこれに基づいて論理的に記述することによって、時代の潮流を掴むことに資するとともに国際的な水準で現実に活動を展開していく際に实际的に役立つ指針を提供することを目指しており、本学会の目的に合致することから、当学会としても全面的に協力することとなった。

なお、発行は2007年1月の予定である。

2-3. 教育・普及・啓発に関する事業

引き続き、お茶の水女子大学公開講座「化学・生物総合管理の再教育講座」に連携機関として参画し、会員が講師として協力した。

資格認定制度の検討は進展がなかった。

2-4. 講演会の開催

- (1) 2005年6月27日 「リスクアセスメントの進歩を目指して」
講師 Michael P Holsapple 氏
国際生命科学協会・環境保健科学研究所 事務局長
(お茶の水女子大学ライフワールド・ウォッチセンターと共同開催)
- (2) 2005年6月27日 「国際生命科学協会・環境保健科学研究所における
ナノマテリアルセーフティプロジェクト」
講師 同上
(ナノ材料のリスク評価に関する研究会において実施)
- (3) 2005年11月1日 「感染症 昨日・今日・明日」
講師 倉田 毅 氏 国立感染症研究所 所長
「化学物質と免疫」
講師 高津 聖志 氏 東京大学医科学研究所 教授
(第2回学術総会の特別講演として実施)

3. その他事業に係る報告

特定非営利活動に係る事業以外のその他の事業については、定款において以下の項目が認められているが、2005年度においてはそれらのいずれについても実施していない。

- (1) 製作した著作物の販売に関する事業
- (2) 講習・研修会の開催事業、講師派遣・紹介事業
- (3) 教育プログラム開発事業、教育実施支援事業
- (4) 機関誌、ホームページ等への広告掲載事業

4. 管理・運営に関する報告

4-1. 会員状況

2005年度の会員動向は下表のとおり、

	2005年 3月31日	入会	脱会	2006年 3月31日	実質増減
正会員	53	15	1	67	14
学生会員	0	0	0	0	0
賛助会員	3	1	0	4	1

賛助会員名簿（入会順、敬称略）

住友化学株式会社

財団法人化学物質評価研究機構

みずほ情報総研株式会社

東和科学株式会社（2005年8月8日 新規入会）

4-2. 定期総会

第2回定期総会（2005年6月27日、東京都文京区 お茶の水女子大学）

出席者42名（内、書面表決者2名、委任状23名）、定足数29名。

- 1) 2004年度の事業報告および決算報告が承認された。
- 2) 2005年度の事業計画および予算が承認された。
- 3) 理事および監事の任期満了に伴い、新役員を選任した。学会運営の充実を図るため、理事を8名から12名に増員した。

4-3. 理事会

(1) 第4回理事会 2005年5月20日

出席理事 総数9名中8名、出席監事1名

2005年度の事業報告および決算報告を承認した後、定期総会の議案を審議し、決定した。監事から2005年度の業務の執行、予算の執行、財産管理の状況などに関する監査報告書が理事会に提出された。

企画運営委員会委員および編集委員会委員の追加委嘱を行った。

(2) 第5回理事会 2005年8月1日

出席理事 総数12名中10名、出席監事1名

8月1日をもって就任した新理事の出席のもと、理事長に増田優氏を互選した。

11月開催予定の学術総会の基本計画について審議した。学会誌の発行計画について編集委員会から報告があり、了承した。

(3) 第6回理事会 2006年3月24日

出席理事 総数12名中8名、出席監事1名

2006年度の事業計画および予算案について審議して決定した。企画運営委員会委員および編集委員会委員の変更について審議して承認した。

4-4. 企画運営委員会

企画運営委員会は理事会から委嘱を受け、学会の運営に関して具体的な施策を企画立案し、業務の推進・調整する委員会である。委員会会合は第 13 回から第 21 回までの 9 回開催し、研究会立ち上げ、定期総会の運営、学術総会および春季学術集会の企画、広報活動などについて検討を行い、推進した。

4-5. 編集委員会

編集委員会は第 9 回から第 18 回までの 10 回開催した他に、E-メール臨時編集委員会も併用して、学会誌の編集方針や内容構成の検討を行った。編集委員をはじめ多くの会員に投稿論文の査読を依頼した。

4-6. 広報活動

(1) ホームページ

学会の PR ツールとして、ホームページを開設している。

2005 年度中のアクセス件数は、2,356 件であった。記事の内容入れ替えは事務局で行っている。なお、掲示板欄に迷惑な不適切な書き込みが多く、1 月以降、掲示板を一時的に閉鎖せざるを得ない状況になっている。

(2) ニュースレター配信

会員宛の連絡ツールとして配信している。

No.7 から No.20 まで 14 回配信した。内容としては、会費の納入依頼、定期総会の開催通知、開催行事の案内、内容が学会の目的に合致している他の講演会の紹介などであった。

以上